

フリースタイルな 僧侶たちの フリーマガジン

平成22年2月
第4号

अप्रतिष्ठानमूलप्रतिष्ठिताः
सर्वधर्माः VKN VI ९6

暖かいおにぎりを届けたい…
「ひとさじの会」活動に参加

フリスタpresents!! 仏教トークライブ
featuring 露の団姫

第5回 2月13日(土) in 名古屋

第6回 2月27日(土) in 京都

インタビュー：日蓮宗法華寺住職 杉若恵亮 和尚

好評連載：Ayakaのヘルシー精進レシピ
「りんご入りホテトサラダ」

Webにもアクセス!

Webサイト「フリースタイルな僧侶たち」はもう見ましたか？
ラジオ放送の音源が聞けるなど、Webのみのコンテンツが満載。
フリーマガジンの記事への評価とコメントもお待ちしています。

<http://freemonk.net>

フリースタイル 僧侶

検索



公園にたたずむ仏陀は何を語る!?

暖かいおにぎりを届けたい… 「ひとさじの会」活動に参加



浄土宗の僧侶を中心に、僧侶が一体となって路上生活者らなどに対して炊き出しを行う「ひとさじの会」(原尚午・会長)の活動が注目を集めている。昨年10月から本格的に始動し、以降メディアに取り上げられるなど、徐々に大きな動きに。今回は、昨年末に実施された炊き出しに参加しながら、密着取材をさせていただきました。

(文 副編集長・仲西俊光)

「僧侶として、
実践的な活動をしたかった」

そう笑顔で話すのは「ひとさじの会」を立ち上げた原会長。元々炊き出しなどに興味を持ち、実際に参加する中で僧侶として独自のスタンスで路上生活者らに対するサポートが出来ないかと模索し、仲間を集めた。

その想いに応えたのが、浄土宗僧侶で事務局長の古水岳彦さんら。僧侶だけでなく、会長らと縁のあるホテルマンなど、炊き出しのプロたちもその中に加わっている。また女性の参加者が多いのも特徴で、みんなが一体となり作り上げていく。ふんだんにかつお節を使うなど、味にも配慮されている。

「これだけで、
一日を過ごす方もおられるので…」

丁寧かつ迅速なおにぎりを作るボランティアの女性の口から出た言葉に、心を打たれた。おにぎりは通常のものとは比べてずいぶん大きい。その理由を聞いた時に出た言葉



だった。設立当初から携わっているスタッフは、路上生活者との会話の中で自分たちの活動の重要性を再認識する。新しく加わった者は、肌で感じて自身の中にある慈愛の気持ちに気づき参加していく。

「冷たいな」と笑いながらも、真剣に米を研ぐ僧侶ら。おにぎり作りは、寒風が吹き荒れる中にテントを張って行われる。みんなが白い息を吐きながら、交代で段取り良く作業が進められていく。

参加者が増えることで「効率やモチベーションが落ちるのでは」という危惧は、スグに消えた。「初めての参加者の方は、慣れている人を真似てください」と、最初に吉水事務局長から話があり、スタッフ同士で教えあいながら「米を研ぐ」「炊く」「味付けする」「にぎる」という一連の動きが有機的に繋がる。「多くのお檀家さんにお食事を提供する機会もあるのです」と、初めて参加したという日蓮宗の若い僧侶は、慣れた手つきで炊き立てのお米とかつお節を、大きなしゃもじで混ぜながら話してくれた。

徐々に大きくなるサポート体制

こうした動きに呼応し、社会福祉事業を応援する浄土宗の「報恩明照会」の職員らも応援に駆けつけた。資金面でのサポートなども行う。「社会福祉事業への助成は、私たちの重要な使命ですから」と袖山榮真理事長は語る。

当初は不足していたスタッフも、徐々に増えてきている。今年からは、一般からのボランティアも募集するなど、更なる動きに注目が集まっている。

ひとさじの会

ひとさじの会(正式名称:社会慈業委員会)は、たとえ一匙(ひとさじ)の重湯のようにわずかでも食べることに困る人々に寄り添い支援しようと浄土宗の僧侶が作った団体。地域社会やNPO団体と共同して社会的弱者の支援を行い、慈しみのあふれる社会作りに携わっている。

賛助会員(ひとさじサポーター) 募集

ひとさじの会では会の趣旨に賛同し財政的に支援する「ひとさじサポーター」を募集している。

- ・ひとさじ会員 年会費1口2,000円(1口以上)
- ・ひとはち会員 年会費1口10,000円(1口以上)
- ・ひとなべ会員 年会費1口100,000円(1口以上)

お問い合わせ先

080-1081-7817 原尚午(会長)
090-6115-8714 吉水岳彦(事務局長)
メールアドレス: itukushimi@hitosaji.jp
<http://hitosaji.jp/>

右ページ写真:

なごやかな雰囲気でお茶を染しむひと時。僧侶が一体となり、救いを実践する
(写真提供・ひとさじの会)

写真右下:

真心を込めて、おにぎりを握る

写真右上:

寒風が吹く中で、真剣に米を研ぐ僧侶

写真左上:

右・原尚午さん(ひとさじの会会長)と、左・吉水岳彦さん(同事務局長)。ともに浄土宗僧侶





った師匠の家にも平気で仏教書
た(笑)——露の団姫(写真左)
やない。多角的なアプローチで
たい——池口龍法(写真右)

フリスタ・リーダーズにまた一人楽しい仲間が加りました。現在、「おはよう朝日土曜日です」にレギュラー出演するなど活躍中の落語家 露の団姫(つゆのまるこ)さんです。

団姫さんは、幼い頃から仏教が好きで、出家して尼さんを志そうかと真剣に悩んだこともあったほど。落語家の門をたたいてからも、その想いは捨てきれず、寄席では仏教落語を行うことも。

そんな団姫さんとフリスタの出逢いは、京都市内のある精進料理屋さんにて。フリーマガジンを配り歩いてきた池口(本誌編集長・浄土宗僧侶)とたまたま席が隣り合わせになって仏教トークで盛り上がり、「じゃあ一緒にトークイベントやりましたよ」となったのです。

トークライブでは、仏教の魅力にハマった団姫さんと、僧侶の池口や熊谷(浄土真宗本願寺派僧侶・仏教学博士/名古屋イベントのみ)のセッションを中心に、法話やクロストークなどをお届けします。楽しく笑いながら、気軽に仏教を学んでみませんか?

さらに、京都での第6回トークライブでは、団姫さんが「利き酒師」の資格も持ちであることを生かして、後半は日本酒を飲みながらのフリートークの時間も。おススメのお酒の差し入れ、大歓迎です(笑)

2010.2.13 in Nagoya

仏教トークライブ 5th & 6th

featuring 露の団姫

2010.2.27 in Kyoto



最先端の仏教学の成果をわかりやすく
く説いていきたい——熊谷誠慈

仏教トークライブへの申し込み・問い合わせは——

フリースタイルな僧侶たち代表 池口
電話: 090-5896-6478
※ Webからも申し込みが可能です。
※ 飛び込み参加も歓迎ですが、準備のためなるべく
事前に申し込みください。

仏教トークライブ第5回
悟りの道も一歩から
〜フリスタ的仏教のススメ〜

日時 2月13日(土)
午後4時

参加費 無料
(よろしければカンパをお
願ひします)

会場 想念寺
名古屋熱田区旗屋町5
09(名古屋市営地下鉄名
城線神宮西駅下車 1番出
口より徒歩2分)

定員 30名



仏教トークライブ第6回
法話と落語と日本酒と
〜悩みなんで笑い飛ばせ〜

日時 2月27日(土)
午後4時

参加費 千五百円(一般)
千円 (フリスタ会員)

会場 ボンズクラブ
トークライブハウス
京都市北区紫野下柳町47-1
(京都市営地下鉄北大路駅
下車徒歩10分)

定員 30名





キリスト教一家だった師を持ち込んでました(笑)・葬式だけが仏教じゃないその奥深さを伝えたいー

2010.3.X with Skype

トークの続きはスカイプで
フリスタ・リーダーズたちのアツイ
仏教談義を聞いてみませんか？
スカイプ（インターネット電話
サービス）でのトークライブには、P

Cとインターネット接続環境があれば、世界中どこからでも簡単に参加できます。
日程は3月未定。近日中に詳細を決定し、Webに公開します。お楽しみにお待ちください。

一般の人にわかりやすい仏教を説く「ボンズクラブ」。主催しているのは、仏法を説く辛さも楽しさも知り尽くした和尚 杉若恵亮さん。「街に出る仏教」を実践している。フリスタも「若者と僧侶を繋げる」をコンセプトにしていますが、まだまだ発展途上中。杉若さんに、これまでの活動と、フリスタへのアドバイスを伺いました。

街に出ることを志す

説法でなく「自分も迷えるお坊さん」というスタンスで語り合いたい——そう願う、ボンズクラブを立ち上げました。お寺から離れ、街に出たのは約20年前の28歳の時。同じ考えの人を探しても見つからず、逆に「わざわざそんなこと」という批判を受けました。周囲からは生意気に思われていたでしょうね

(笑)

ボンズカフェの特徴は、宗教にとらわれず、どんな人でも参加できるところ。町家やカフェなどで開く「ついきいちボンサンと語ろう会」は、コーヒーを飲みながらお坊さんとひたすらフリートークの時間を設け、気軽に仏



あらゆる人に仏教を開いて

教に親しんでもらう試み。参加者から「来月の『語ろう会』まで頑張つて生きます」との言葉が聞けたことが嬉しかったですね。

宗教は全ての人のために

私は「宗教は限られた一部の人のためのものではない」との信念を持っています。

お檀家さんは常に好意的で何かにつけて有難い存在。しかし、街に出るとア

ンチ仏教の人も含め様々な境遇

の方に話す機会が増えます。お坊さんはずいぶん教義を持ち出して対話しがちですが、もっと現実的な話を聞きたい人も多し。そういう人たちが切磋琢磨していかなければと思いますね。

フリスタへのメッセージ

宗派の垣根を越えて活動す

杉若恵亮(すぎわかえりょう)・プロフィール

1959年生まれ。京都府亀岡市の日蓮宗法華寺住職。

京都市北区のボンズクラブトークライブハウスを自ら運営し、毎月「ついきいちボンサンと語ろう会」を開催する(詳細下記)。また、毎週火曜日午後10時からはFM79.7京都三条ラジオカフェにてボンズカフェライブを行うなど多彩な布教活動を展開中。他にも、NPO法人活動への取り組みも。

るのは、とにかくエネルギーが必要。その中で、若い世代が志を持って頑張っている姿には、ただ嬉しいの一言。応援していますよ。

杉若和尚 presents

ついきいちボンサンと語ろう会

vol. 240
2010/2/28 (SUN) 18:30~

料金: 1,000円
会場: ボンズクラブトークライブハウス
住所: 京都市北区紫野下柳町47-1
電話: 075-432-8716

↓会場地図

オイルとビネガーにハーブなどで風味をつけた、ドレッシングのようなスープでじゃがいもを炒め煮します。火にかけるのでビネガーがまろやかになり、温かいままでも、勿論冷やしても美味しくいただけます。

Ayakaのヘルシー精進レシピ

りんご入りポテトサラダ

材料(およそ4人分)

メークイン 5~6個(500g程度)
人参 1/2本
セロリ(軸の部分)1/2本
りんご 1個
水 100cc(野菜ブイヨンでも可)
ビネガー 大3
オリーブオイル 大3
マスタード 大1
乾燥ハーブミックス 大1
砂糖 小1
セルフィーユ 1束
(イタリアンパセリでも可)
塩 胡椒



1 メークインは皮のまま固めにゆでる。(ここで完全に火が通っている必要はない。)

ざるにあけて、自然に冷やす。その間に、人参は3mmほどのイチョウ切り、セロリはみじん切りにしておく。りんごは8等分に切ったあと、5mmほどの厚さの一口大に切って、塩水に浸しておく。(りんごの皮は剥かない方が、色味がかわいい。)



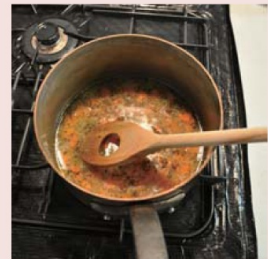
2 メークインの皮を剥き、5mmほどの輪切りにする。



3 鍋にオイルを熱し、人参とセロリを弱火で炒め

る。しんなりと火が通ったら、水、ビネガー、マスタード、砂糖、ハーブミックスを加え、軽く塩胡椒をして、煮立たせる。

4 鍋に2のメークインを加え、返しながらかき混ぜながら炒め煮していき、水分を飛ばしながら、炒りつけるように味をなじませる。



5 水分がほとんどなくなったら、鍋を火から下ろし、水を切ったりんごを加える。木べらなどでよく混ぜる。

6 塩胡椒で味を調え、セルフィーユを散らす。

tips 冷製でいただく場合は、温かいときより塩味があいまいになるので、味見して、適宜塩を加えるとよい。脂っぽい料理の付け合わせにする時は、最後にビネガーやレモンなどで酸味を足すと、さっぱりと美味しくいただける。

南ドイツでは、このようにマヨネーズを使わないポテトサラダが一般的だとか。メークインのしゃきしゃき感が楽しめるように、火を通しすぎないのがポイント。

written by

Ayaka
Ireguchi

(料理愛好家)

4号発刊時期における

エポックメイキングな出来事など

これまで編集後記では、代表の池口編集長が「生の声」をお届けしていましたが、今回は副編集長の仲西が担当します。

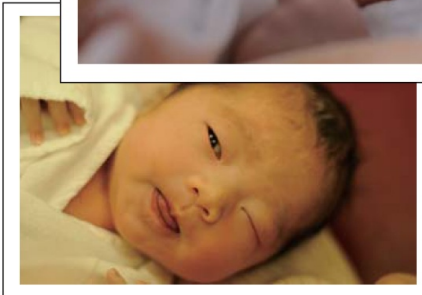
実は。

この編集後記を書いている2日前に、池口代表に娘さんが生まれました!! ついにパパデビュー!! 僕と池口代表との携帯電話のメールは、かなりの量になるのですが、娘さんの誕生の

今回。そうとう嬉しかったのでしよう。初めて「♪」が入っていました(笑)

ひとつの命の誕生。そこにはたくさんのロマンや「幸せ」が存在しています。よく「幸せの価値観は人それぞれ」と言われますが、やっぱり「命が生まれる」というのは、数少ない「絶対的な幸福」。もちろんその裏では女性の「生みの苦しみ」があります。

しかも、出産直前だったにもかかわらず、ヘルシー精進レシピも休まず執筆。本当にお疲れ様です。



進化し続ける「JAPAN」

生みの苦しみ

は続けましよう」と。半年は歯を食いしばって

今回の表紙は、割と「斬新かなあと。仏教の本質やロジックを大切にしながら、社会が求めるものを伝えていく。そんな理念を持つフリストアにとって「インパクトを与える」「進化し続ける」とは、至上命令。それは同時に、「生みの苦しみ」と常に隣り合わせであること。実はこの4号発刊、フリストアの大きな節目なんです。そもそも「仏教をクリエイティブに伝えたい」という想いから始まったこのプロジェクトは、とりあえず、3号

は続けましよう」と。半年は歯を食いしばってでも発刊し、反応がなければ、潔く撤回しようと編集部は決めていました。これは、こちらが表現して伝えたい「シーズ」は決まっていますが、社会が求めているもの「ニーズ」に食い違いがあれば、それは意味が無いことだという「想い」からです。

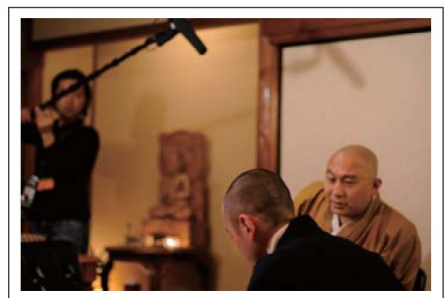
しかし、実際に動き出すとメディアに取り上げていただくなど、多くの方からの反応がありました。まさかNHKのニュースで全国に放送されるとは、半年前の立ち上げ時点で誰が想

像していただいでしょうか。

4号以降は、更に多くの人に「本当に伝えなければならぬこと」を発信していくことが重要になってきます。とはいえ、「フリストアスタイル」が私たちの本質!! 小難しく考えるよりは「どりあえず、行動!!」で、これまで通り、仏教をクリエイティブに発信していきます。

そして、もう一つ大きな動きが。これまで、フリストアの編集作業やデザインなどは、ほぼ編集部で行っていたのですが、今回から「フリストア・リーダーズ・クラブ」の松下さんに手伝っていただくなど、リーダーズと共に企画段階から取り組んでいくという方式にシフトしつつあります。多くの智慧を活かしプレクスタイルしていきます。

(副編集長・仲西俊光)



日本文化に触れて、国際協力!! 着物チャリティバザー

心のこもったいい着物を、チャリティバザーならではの価格で提供!!
売上のすべては、国際協力のために寄付します。



日時:2月25日(木)
午前11時~午後5時
会場:閑臥庵(かんがあん)本堂
(京都市北区烏丸通鞍馬口東入ル278/京都市営地下鉄烏丸線鞍馬口駅下車 東へ徒歩3分)
Tel:075-256-2480

主催・お問い合わせ
アユス 仏教国際協力ネットワーク 関西事務局
Tel:06-6395-3987 Fax:6391-4567
大阪市淀川区西三国1-12-43自敬寺内
E-mail:kansai@ayus.org
http://www.jikeiji.com/ayus/kansai.htm

空気椅子の仏陀が
語るものは

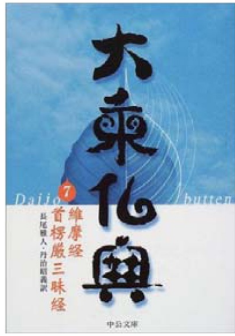
表紙を見たとき、あなたはどう感じただろうか。

「スーツに仏陀のマスクかよー！」
「しかも空気椅子とはウケるね」
大体そんなところだろう。

しかし少し考えてほしい。何ゆえにそう判断をくだしたのか。

誰も皆それぞれの立場や経験に基づき、自分なりの「正しさ」を堅持して生きていくが、所詮すべてはうつろいやすく無常であり、確たるものなど何もない。人は絶対的な自信をもつて「正しさ」を語り、時としてそれを武器に他者を責めるが、果たして「正しさ」に確たる根拠などあるのだろうか。

『維摩経』は私たちのこのような生き方を鼻で笑うがごとくに言う――
「すべての存在は基底なき根本に立脚してśūṇa (apratishāna-nūla-pratīṣṭhāna-sarva-dharmāḥ)」。



『大乗仏典 7 維摩経・首楞嚴三昧経』(中公文庫)
翻訳:長尾 雅人 丹治 昭義
定価:1,800円
出版社:中央公論社

「すべての存在は
基底なき根本に
立脚している」

『維摩経』は維摩居士が主役の物語である。居士とは在家の資産家のことだから、つまり維摩は出家者ではなく俗人で、酒場に現れることもあれば、売春宿に出入りすることもある。しかしその素行ゆえに俗人と侮るべからず。維摩とはサンスクリット語の音写で「汚れを離れた者」という意味であるが、その名の通り、彼は仏陀の領域に至ろうかというほどの超越した知識を持つ。俗人維摩が並いる仏弟子たちを弁舌巧みにやりこめていくシーンは痛快である。

「俗」は『維摩経』の二つのキーワードだ。
俗こそ仏道。世俗の中にこそ真実の華が咲く。その体現者たる維摩は、五濁悪世を飄々と生き抜く。
(渡辺如心・仏教学研究)

維摩のごく俗を生きよ

協賛の報告

本誌発行にあたり、以下の皆様よりご協賛をいただきました。厚く御礼を申し上げます。

- 安心院 (京都府八幡市・浄土宗)
- 安楽寺 (京都府南丹市・浄土宗)
- 教伝寺 (京都府船井郡・浄土宗)
- 九品寺 (京都府京都市南区・浄土宗)
- 西明寺 (兵庫県尼崎市・浄土宗)
- 浄観寺 (滋賀県甲賀市・浄土宗)
- 大圓寺 (東京都目黒区・天台宗)
- 臺鏡寺 (大阪府枚方市・浄土宗)
- 檀王法林寺 (京都府京都市左京区・浄土宗)
- 念佛寺 (三重県伊賀市・浄土宗)
- 法善寺 (大阪府大阪市・浄土宗)
- 法然院 (京都府京都市左京区)
- ※ 五十音順に表示しています。
- ※ 協賛は随時受け付けています。

フリスタ・クラブ会員募集中!!

私たちの活動に共感し、応援して下さいる人を大募集中!! 「サポーターズ・クラブ」と「リーダーズ・クラブ」があります。

■フリスタ・サポーターズ・クラブ

対象者 フリスタを応援していただける方
協賛年会費 5千円
※ フリスタ・サポーターズの皆様には、年間6回発行予定の本誌をお届けします。また、フリスタ主催の各種イベントにおいて、優待いたします。

■フリスタ・リーダーズ・クラブ

対象者 仏教に関しての資格や知識を持ち、フリスタの指導者として活動していただける方
協賛年会費 1万円
※ フリスタ・リーダーズの皆様は、フリスタの指導者として、各種活動に参加していただけます。また、フリスタ・サポーターズ同様のサービスも含まれています。

お申し込み、お問い合わせは、フリースタイルな僧侶たち編集部(電話番号などは下記)まで。ホームページからお申し込みいただけます。

フリースタイルな僧侶たちのフリーマガジン

平成22年2月1日発行 第4号
発行元 フリースタイルな僧侶たち 編集部
〒661-0982 尼崎市食満6-11-15
Tel.090-5896-6478(池口) / 070-5658-4922(仲西)
info@freemonk.net
http://freemonk.net

※ 本誌のコンテンツを無断で転載することを固く禁じます。

題字 しらたきなべお
写真 加納和雄 渡辺如心
DTP&デザイン 池口龍法 松下弓月
ライティング・ 仲西俊光
ディレクション
企画・制作・編集 池口龍法 仲西俊光
総指揮 池口龍法
Special Thanks 渡辺裕美